

| | | | |
|---------|---------------|---------------------------------------|--|
| 科目担当者氏名 | | 科目担当者連絡先（メールアドレス） | |
| 田中潔 | | tanaka@po.osu.ac.jp | |
| 連絡責任者氏名 | | 科目設置機関名 | |
| 田中 潔 | | 岡山商科大学 経営学部 商学科・経営学科(商学部 商学科・会計学科) | |
| 授業科目名 | 科目認定番号 | 受講者数 | |
| 社会調査実践 | OKSb-090601-0 | 20人 | |

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

調査実習に当たっては、社会調査に関する全般を修得できた。路上面接調査を課題として、仮説の設定から、質問紙の設計、実査の準備、実査、集計・分析そして発表に至るまで、一人ひとりが実習を行った。この一連の実践実習により、机上での理論のみならず実査の重要性を確認できたとともに、これまでのカリキュラムの理解にも役立った。なお、年度当初には20名の受講生であったが、最終的に単位認定した者は7名であった。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

岡山市中心市街地来街者調査

2. 調査の内容／概要：

岡山市中心街区における来街者意向調査（量的アンケート調査、路上面接方法）

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

岡山市中心部への来街者、時刻を基準にした無作為抽出、1調査員につき平日25票、休日25票を目安とする。

4. 主な調査項目：

性別、年齢区分、休日・平日、来街目的、来街までの所要時間、頻度、調査地点周辺に不足している機能、今後賑わうと思われる岡山市中心部などを基本項目として、各自でアレンジ。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

現地調査は1人ずつ所定の用具を持ち、事前に選定した調査地点にて担当制でじった。路上にて調査員自らが回答者を選定し、調査を依頼した。協力が得られる場合、

事前に用意した質問紙によって回答を収集した。回収率算出のため、カウンターにより依頼数（配布数）を計測した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2009年11月下旬 岡山市（岡山駅前付近）7名

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

依頼数1,865人(7名合計) 改修数 292人 回収率 15.7%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

エクセルの関数利用による集計・分析 基礎統計量、度数分布表、2次元クロス表など

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

岡山市市中心地に対する市民の意見・意向を収集できた。

岡山市中心商業は表町と駅前の2眼構造となっており、市民の満足度も低いものとなっている。今後、この分極構造の是正が大きな課題となる。

10. 報告書刊行の予定と概要：

刊行予定はない。発表会向けに作成したパワーポイントファイルとして収集している。